

令和5年度
特色ある学校づくり対策事業

「確かな学力」と「豊かな心」
をはぐくむ相浦小学校



佐世保市立相浦小学校

校長 橋爪 良仁
児童数 490名 学級数 21学級
所在地 佐世保市上相浦町3番9号

1 ねらい

教育目標におけるめざす児童像である「夢を持ち本気で学ぶ子」「思いやりに満ちたやさしい子」「ふるさとを愛する子」の実現に向け、「確かな学力」と「豊かな心」を育む取組を推進する。そのための土台として、「みんなが楽しく、安心して学べる学校」の創造を目指す。

2 実践内容

(1) 「確かな学力」の定着

①標準学力調査の実施

12月に標準学力調査(国語・算数)を全学年で実施し、本校児童が抱える課題を考察し、全職員での共有を図った。特に文章の読解や言葉に関する力の不足が起因する学力に課題があることから、今年度取り組んだ国語科授業の在り方についての校内研究を通して、授業改善を図った。12月に実施した全学年における校内学力調査の結果の分析を通して、今年度の取組を成果と課題を明確にし、指導事項の重点化を図るなど、授業改善のための基本資料としての活用を図り、学力の向上に努める。

②学習ボランティア活動の推進

授業支援のために、近隣の大学の学生から学習ボランティアを募った。5年度は2名の学習ボランティアに来校していただき、3年生の授業支援を中心に活動していただいた。年齢的な近さもあり、すぐに児童との関係性が築かれ、安心してつまずいたところを尋ねる様子が見られた。また、より多くの目で児童を見守る体制ができるとともに、児童のよき話し相手となり児童の落ち着きややる気の向上につながった。今後もこの取組を充実させていく。



(2) 「豊かな心」の育成

① 3年生 総合「相浦の自まをみつげよう」 長崎短期大学との交流

本校の近くに長崎短期大学がある。ここにはいろいろな国からの留学生が多数在籍しており、その留学生との交流会を行なった。

大学施設の中を見せてもらったり、クイズ形式で各国の様子を紹介されたりして、とても友好的な雰囲気の中、楽しく交流会が行われた。子どもたちも大変満足な様子だった。



② 4年生 総合「やさしさを広げよう」

4年生は総合的な学習の時間に「福祉」をテーマに学習に取り組んだ。社会福祉協議会の協力を得て、車いす体験や、体の自由がきかないお年寄りの擬似体験を行った。

また、目や耳が不自由な方を講師として招聘し、講話をいただいた。また、ユニバーサルデザインについても学習し、普段身の周りにある物には、様々な立場の方が使えるような工夫がしてあることを学んだ。



③ 5年生 総合「米作りに挑戦」

5年生は総合的な学習の時間に米作りに取り組んだ。農業体験指導員の方のサポートを得ながら、普段自分たちが食している米作りに取り組んだ。もみ蒔きから苗づくり、田植え、収穫と、米作りの作業を1から体験させていただいた。普段何気なく食べている米にどれだけの手間と時間がかかっているのかよく分かったようである。収穫した米は、家庭科の調理実習で使ったり、自宅に持ち帰ったりした。また、とれた藁を使って正月のしめ縄づくりも行った。



④ 5年生 家庭科「ミシンでソーイング」

日頃よりお世話になっている公民館長さんに来校していただき、家庭科の学習支援を行っていただいた。特に5年生にとっては初めて使うことになる、ミシンの使い方を教えていただいた。ミシンの指導は指導する側にとっても難しく、児童に技能を習得させるまでにかなり時間を要する。そのような中、ゲストティーチャーに来ていただき、指導していただくことで、より効果的な学習になるとともに、児童との温かな交流の場とすることができた。



⑤ クラブ活動

本校には「日本文化クラブ」がある。日本伝統の様々な文化に触れ、その良さを体験するクラブ活動である。その日本文化クラブでは、お琴や生花の先生を招聘し、体験活動を行なった。

普段は触れる機会のない琴という楽器を体験することができ、子どもたちもとても楽しそうにしていた。また、生花も日本伝統の「美しさ」を体験できる貴重な機会となった。このような体験ができるのは、ゲストティーチャーのおかげである。



(3) おわりに

「確かな学力」の定着については、過去の校内学力調査の結果との経年比較を加味しながら、次年度の研究に向けた研究内容と重点指導事項の改善を検討し、PDCAサイクルを継続していく必要がある。また、近隣の大学の学生による学習ボランティアが軌道に乗ってきたことから、次年度は、さらに担任との連携を深めながら、個に応じた学習支援等に力を入れることで、効果的な取組としていく。

「豊かな心」の育成については、校区に豊富な教材が身近にあることに加え、長年、本校児童の学習に携わっていただいている地域の人材により、充実した学びの機会となっている。自分たちが暮らす地域に住む方との交流を児童は大変喜び、学習活動の充実のみならず、児童が地域を知り、地域を愛する機会となっている。ふるさとを知り、ふるさとを愛す児童を育成することが、将来の地域の基盤となることを信じて、今後も体験学習の充実を図っていく。